

十和田市事務事業評価シート

【事務事業の概要】

整理番号	②-126	実施計画番号	168	事業開始年度	平成元年度
事務事業名	新渡戸友好都市交流委員会への支援			事業終了年度	
担当課名	まちづくり支援課			事務の種類(選択)	自治事務
根拠法令等				関連事務事業	
背景や経緯等	新渡戸友好都市提携盟約を締結している岩手県花巻市との民間交流活動の推進を図るため、新渡戸友好都市交流委員会の交流活動を支援する。				
事務事業の目的	友好都市である花巻市との交流活動を推進する。				
実施状況	26年度に25周年を迎え、例年にない市民レベルの交流人口の増加を達成した。 27年度においても、花巻市から十和田市へのツアー客の増加(20人→70人)など、両市の市民交流が活発に続いている。				

【人件費の推移】

		26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
正職員	従事者数(人)	1	1	1
	活動日数(日)	50	40	40
	人件費(千円)	1,800	1,440	1,440
正職員以外(選択↓)	従事者数(人)			
	活動日数(日)			
	人件費(千円)			

【事業費の推移】

		26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
事業費合計(千円)		510	300	300

【指標】

活動指標	活動指標名①		市民参加の交流事業の実施回数			
	計算式等		単位	26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
			回	3	2	2
	活動指標名②		団体同士による交流事業件数			
	計算式等		単位	26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
			件	3	3	3
成果指標	成果指標名①		交流人口			
	計算式等	単位	26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定	
		人	目標値	250	200	200
			実績値	304	200	
			達成度(%)	122%	100%	
	成果指標名②					
	計算式等	単位	26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定	
			目標値			
	実績値					
	達成度(%)					

十和田市事務事業評価シート

【担当課による検証】

ポイント		検証(選択)	評価	点数	合計	検証の理由				
妥当性	① 市民ニーズ等から見る妥当性 市民ニーズや時代潮流の変化により、事務事業の役割が薄れていないか	A 薄れていない B 幾分薄れている C 薄れている	A	2	4	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: right;">存在意義の見直しの余地</td> <td style="text-align: center;">0 / 4</td> </tr> <tr> <td colspan="2">新渡戸友好都市締結は自治体間で行われており、交流事業を実施することは妥当である。</td> </tr> </table>	存在意義の見直しの余地	0 / 4	新渡戸友好都市締結は自治体間で行われており、交流事業を実施することは妥当である。	
	存在意義の見直しの余地	0 / 4								
新渡戸友好都市締結は自治体間で行われており、交流事業を実施することは妥当である。										
② 実施主体である妥当性 行政が実施することが妥当か(民間と競合していないか)	A 妥当である B あまり妥当ではない C 妥当ではない	A	2							
有効性	③ 活動指標から見る有効性 活動指標の実績は、順調に推移しているか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	A	2	6	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: right;">成果向上の余地</td> <td style="text-align: center;">0 / 6</td> </tr> <tr> <td colspan="2">交流事業として市民対象のツアーを実施している。毎年7割の方が新規で参加し、好評を得ており、交流事業に対する理解を深め、交流人口の拡大につながっている。</td> </tr> </table>	成果向上の余地	0 / 6	交流事業として市民対象のツアーを実施している。毎年7割の方が新規で参加し、好評を得ており、交流事業に対する理解を深め、交流人口の拡大につながっている。	
	成果向上の余地	0 / 6								
	交流事業として市民対象のツアーを実施している。毎年7割の方が新規で参加し、好評を得ており、交流事業に対する理解を深め、交流人口の拡大につながっている。									
④ 成果指標から見る有効性 成果指標の目標達成状況は、順調に推移しているか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	A	2							
⑤ 事務事業の見直しの余地 成果を向上・安定させるため、事務事業の見直しの余地はあるか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	A	2							
効率性	⑥ 事業費の削減の余地 事務手順の見直しや正職員以外での対応により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	B	1	4	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: right;">コスト削減の余地</td> <td style="text-align: center;">2 / 6</td> </tr> <tr> <td colspan="2">バス料金の値上がりにより、交流事業のコストが押し上げられているため、コスト削減に努め、効率性を高める必要がある。また、事務局に民間活力の導入及び交流事業全般を対象とする委員会のあり方を検討する余地がある。</td> </tr> </table>	コスト削減の余地	2 / 6	バス料金の値上がりにより、交流事業のコストが押し上げられているため、コスト削減に努め、効率性を高める必要がある。また、事務局に民間活力の導入及び交流事業全般を対象とする委員会のあり方を検討する余地がある。	
	コスト削減の余地	2 / 6								
	バス料金の値上がりにより、交流事業のコストが押し上げられているため、コスト削減に努め、効率性を高める必要がある。また、事務局に民間活力の導入及び交流事業全般を対象とする委員会のあり方を検討する余地がある。									
⑦ 他の事務事業との統合・連携 類似又は関連事業との統合・連携により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A	2							
⑧ 民間委託等 民間委託・指定管理者・PFI等により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	B	1							
公平性	⑨ 受益の偏り 現在の受益は公平か。特定の個人・団体に受益が偏っていないか	A 偏っていない B 多少偏っている C 偏っている	A	2	4	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: right;">受益者負担適正化の余地</td> <td style="text-align: center;">0 / 4</td> </tr> <tr> <td colspan="2">交流活動には広く一般市民の参加も呼びかけており、受益の偏りはない。</td> </tr> </table>	受益者負担適正化の余地	0 / 4	交流活動には広く一般市民の参加も呼びかけており、受益の偏りはない。	
	受益者負担適正化の余地	0 / 4								
交流活動には広く一般市民の参加も呼びかけており、受益の偏りはない。										
⑩ 受益者負担の見直しの余地 現在の受益者負担は適切か。見直しの余地はあるか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	A	2							
現在の適性					18 / 20	改善の余地	2 / 20			

【点数化による検証】

当該事業の現在の適性は20点中 **18** 点です。

当該事業の改善の余地は20点中 **2** 点です。

【担当課長による評価】

当該事業の今後の方向性(選択) ※事業終了年度がH27の場合は回答不要

効率性を改善して継続

方向性の理由 ※事業終了年度がH27の場合は回答不要

友好都市間の相互理解と交流をより一層深めるため、既存交流事業の内容を見直しつつ、交流人口の拡大を図っていく。

今後の具体的な取組方策と狙う効果 ※事業終了年度がH27の場合は、『事業を実施したことにより今後見込まれる効果』を記載してください。

友好都市間の相互理解と交流をより深めるため、交流事業の充実を図りながら、交流人口の拡大を図り、地域間交流を地域の活性化に活かしていく。